2026 年度 講座・出前授業報告書 No. 17

開催日 時	2026 年 9 月 14 日（月）　開始時間　8：50　　終了時間　12:20						
開催場所	中央小学校						
実施内容	3 年生プラスチック						
学年、組、等	3 年 3 組		3 年 2 組				参加児童数計
児童数	出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席	
	25	1	26	1			51
スタッフ	7 名	実施機関スタッフ		1 名			

1　概要

理科実験や工作、野原の自然観察などを主なテーマとする講座を行っているが、学校からの要望により、理科と生活科（1，2 年生）を融合した総合学習として、講座を開設した。

“どうしようかプラスチック”と銘打ち、各種プラスチックが生活の広範囲で使われていること、水、塩水に“浮かぶ/浮かばない”の実験を含めた特性を学び、プラスチックの環境に及ぼす影響について学んだ。SDG s の一環として地球温暖化問題も含め、プラスチックをどのように利活用するのか考えさせ、発表させた。

2　実施内容

・PPT に沿って質問を交え、発表させ、考えさせながら進めた。
・生活の中に浸透したプラスチックの製品を紹介し、特性を認識させた。
・ペットボトルのキャップ、本体瓶、ラベルの 3 素材を水、塩水（海水を模擬）に漬けた浮沈の実験で、事前予測及び実験結果をワークシートに記入させ、発表させた。
・SDGs で取り上げられている、プラスチックの製造（原料石油）、生活での使用、破棄（河川～海洋）マイクロプラスチック化（劣化）、魚の摂取、ヒトの食料となる一連の流れについて紹介した。
・プラスチックごみの将来増（2050 年の予測）と分解せずに環境に残る問題を紹介した。
・魚（カタクチイワシ）の胃の中にあるマイクロプラスチックをマイクロ顕微鏡で投射し、実際にマイクロプラスチックが身近な問題であることを認識させた。
・最後に、プラスチック問題をどのようにとらえるのか、個人の意見を発表させた。

3　良かった点、課題点など

良かった点：

・各項目について、質問を交えながら、子ども達に考え、発表を誘導した。
・ワークシートに事前予測、実験結果及び感想を記入させ、考えることを助長させた。

課題点：

・1 講座目に子ども達に学習用タブレットによる写真撮影を認めたため、講座に集中できない子どもがいた。（2 講目は禁止したため、講座に集中できた。）
・SDG s に関する NHK などの報道をみており、講座に集中できない子どももいた。一般的な情報については、テーマとせずに、実験など理科で遊ぼう会独自のテーマを模索すべきである。

